

令和3年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立北灘小学校

1 自己評価書

教育目標	「つながり、挑戦し、共に伸びていく児童の育成」 学校スローガン「つながる！チャレンジ！」					
基本方針	北灘地区の文化と伝統、地域人材を生かし、何事にも前向きに力を合わせて挑戦する児童、ふるさとに愛着をもつ児童の育成を目指し、保護者や地域と共に歩む学校づくりを推進する。					
本年度重点目標	「元気に登校、笑顔で下校」 (1)健康・安全教育の充実と徹底 (2)教師と児童の信頼関係の構築及び児童相互が認め合う好ましい人間関係の形成 (3)確かな学力の定着と向上 (4)地域と共にある学校づくりの推進					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。 ・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	B	B	
	②	授業改善	自ら学ぼうとする意欲を高めるために発問を工夫し、主体的な学びの実現に向けた授業改善に努めた。(受け身の授業からの脱却) ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B	A	
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 ・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B	B	
			一人1台端末(iPad)の効果的な活用を通して、主体的に学びや個に応じた学びの推進に努めた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B	B	
	③	家庭学習の充実	授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。(予習・復習・振り返り等) ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B	B	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心意欲を高め、読書習慣の定着に努めた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C	B	
	⑤	ふるさと学習及びESDに関連する学習	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C	B	
	(成果と課題) ○どの学年もiPadの活用場面を工夫し、児童も操作に慣れてきた。△図書の本を持って帰らない児童が多い。読み聞かせができていないので、時間を取りたい。△感染対策期が長引き、総合的な学習の時間におけるふるさと学習が十分にできていない。					
	(改善策等) ○定着するまで繰り返し学習することができるよう、自分たちで学習するマニュアルを作りたい。○iPad持ち帰りの登下校の負担を軽くするために、家庭学習のない教科書・ノートを持ち帰らないなどの対策を行う。○総合的な学習の時間に体験や調べ学習を行い、内容の充実を図る。					
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B	A	
	②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間づくりに努め、心の通う対人交流が深まってきた。 ・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B	A	
			不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 ・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B	B	
			学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止、早期発見、解決に向けて組織的に取り組んだ。 ・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B	B	
	③	基本的な生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で取り組んだ。 ・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B	A	
	④	自己肯定感等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 ・児童生徒アンケート ・児童生徒の姿	A	A	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。 ・児童生徒アンケート ・児童生徒の姿	A	A	
	(成果と課題) ○生徒指導上大きな問題はなく、児童は学習や生活面でよく頑張っていた。△児童同士のトラブルや人を傷付ける言動に対しては、指導や未然に防ぐ関わりをしていく。△生徒指導アンケートを毎月行うことは児童トラブルの早期発見ができて良いと思うが、時間がかかるため、簡潔なものに替えてはどうか。△うわじま健康ナビを取り込めない保護者もいる状態で、一本化するの疑問。確認にもすぐ手間がかかる。△宿題を放課後活動の負担を減らしているが、交換授業の宿題が学級担任の了解を得ないまま課せられていた。休み時間での取組が求められていたこともあったが、休み時間は本来は子どもたちの自由な時間として保障するべきである。					
	(改善策等) ○学校生活アンケートの実施方法を検討する。児童の悩みや困り事を的確に知るための工夫をする。					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	C C	C
	② 働きやすい環境づくり	業務改善に向けて自校の課題を洗い出し、慣例にとらわれることなく積極的に改善に努めた。	・教師アンケート	B	B
		休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	C	C
③ 他の教職員のサポート体制の充実	管理職や学年主任、教科主任、生徒指導主事等に対し、必要に応じて報告、連絡、相談を確実にし、問題を一人で抱え込まず組織で対応した。	・教師アンケート	B	B	
<p>(成果と課題) ○昨年度末から検討していたこと(登校指導、日課の改善、行事の統合等)は年度初めから実行している。△超過勤務80時間以上の教員が毎月いる現状。△様々な面で課題や問題が多いと感じた。工夫をしようとしても時間的な制約が多く、工夫に限界があると感じた。校務内容については抜本的な見直しや改善が必要だと思う。長時間労働を是認せず、残業が100時間を超えることがないようにする。</p> <p>(改善策等) ○先を見通して、長期休み中に文書の作成などできることを行っておきたい。○1日4時間以上超過しない計画的・規則的な退庁時刻の設定。土日どちらかは学校に来ない日を設ける。連携・協働の推進。(早目の計画、共通理解)課外活動の土曜日の練習をやめることも検討。△昨年度までの流れを変えることは簡単なことではないと思う。教科書やタブレットを使って授業の効率化が図れるのなら、その点についてはもっと研究しなければならない。行事等の起案の簡略化、無駄な文書の提出廃止を検討すべきではないか。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めるとともに、全職員の共通理解の下、学校運営協議会の活性化を図り、地域力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	B A A	A
	② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	B	A
			・保護者アンケート ・地域アンケート	A A	
③ 来校・相談体制	保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	B A A	A	
<p>(成果と課題) △今年は家庭訪問ができなかったため、保護者と対面で話をしたのが7月の懇談会となった。体のことについて初めて聞くこともあったので、もっと早く話す機会をもつべきだった。△学級通信は休日出勤で作成するなど、なかなか手が回らなかった。△保護者とも地域の方ともマスク越しでしか顔を合わせておらず、心の距離が近づきにくい。関わる機会が少ない中で、どう信頼を得ていくかは考えないといけない。○地域コーディネーターの声掛けにより、ボランティア活動が定着してきた。○iPad持ち帰りのためか、児童も学校ホームページをよく見るようになった。自分たちのことが載っていると嬉しそうにしている。○コロナ禍の中、最大限の工夫をして下さって、ありがたい。○子どもたちは元気に学校生活を送っている。コロナ禍で大変ですが、これからもお願いします。</p> <p>(改善策等) ○ボランティア活動は、今後も保護者・地域の方と協力し合って進め、関わりの中で信頼関係を築く。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満